

## 宮古・下閉伊地方 原木しいたけ生産技術研修会の開催

### 1 はじめに

生産者及び関係機関・団体に組織する宮古・下閉伊地方原木しいたけ生産推進協議会では、原木しいたけ生産の意欲と技術の向上を目指し、令和3年12月9日(木)、宮古市刈屋地内の佐々木啓之氏のホダ場を会場として、原木しいたけ生産技術研修会を沿岸広域管内22名の参加を得て開催したのでお知らせします。

### 2 研修内容

#### (1) 令和3年の作柄等について

(林業技術センター 佐々木上席林業普及指導員)

今年の春子は、県内の主産地である沿岸地域を中心に不作となりました。

この状況について、前年の気象条件と今年初春の発生は良く、収量確保を期待する声もあったものの、4月の低温で思うように発生しなかったことが解説されました。

今年の秋子は、例年より高めの気温や、断続的な雨と荒天により、雨子状態での採取を余儀なくされているが、灯油価格の高騰で乾燥コストがかかることから、気象情報を把握し、できるだけ雨子にならない採取を心掛けることが大事であるとの指導がありました。



径級ごとに整然と伏せこまれたホダ木

#### (2) 原木しいたけ栽培について(佐々木啓之氏)

今回、研修会場を提供された佐々木啓之さんは、平成初期から養蚕に代わる品目として原木しいたけの生産を拡大し、現在、5万本を超える有効ホダ木を有し、管内を代表する生産者の一人です。

自伐した原木を太さによって種コマと形成菌で使い分けることや、沢水を効率的に活用した散水、原木の吸水量を上げるための鋸目等、妻の静子さんとともに経営の工夫を重ねてきたこと、ナラの植栽による原木の確保などについて説明があり、参加した生産者の皆さんからも多くの質問がありました。

### 3 おわりに

研修の事前打合せの中で、佐々木ご夫妻は、原木林の供給や収穫の手伝いなどをして下さる地域の皆さんへの感謝の思いが厚く、「原木しいたけの生産を通じて地域へ還元していきたい」との言葉が印象的でした。

担い手が減少している中、地域の高い生産技術を継承する技術交流は重要であり、生産者の皆さんと連携して、引き続き、技術向上や販路拡大に向けて取り組んでいきます。



研修の事前打合せ